

# 小学校 第3学年 音楽科 学習指導案

青森県八戸市立江陽小学校  
教頭 石井 一二三

**題材名** ばんそうに合わせてせんりつをつくろう（2時間）

**題材の  
ねらい**

- (1) 旋律の音の組合せ方の特徴に気付き、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) 旋律や音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して音楽づくりの発想を得る。
- (3) 即興的に旋律をつくる学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習に取り組む。

**本時の  
ねらい**

設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして音の重なりや縦と横との関係により生み出されるよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。（第2時）

**指導時期** 12月


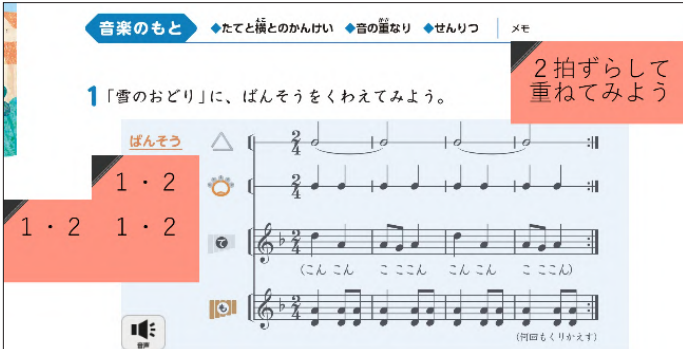
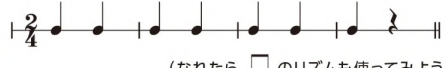






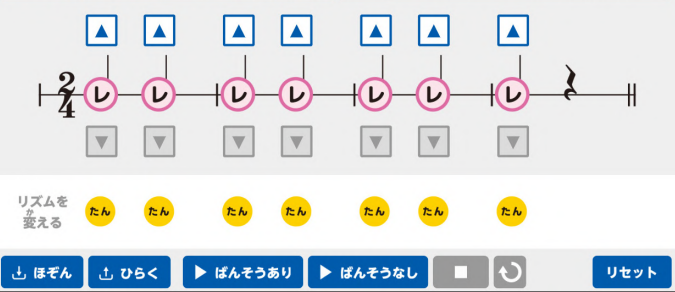
## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

旋律づくりの指導は、音楽の指導に苦手意識をもっている教師にとっては一番ハードルが高い内容である。さらに、音楽の学習を苦手としている児童にとっては、旋律づくりをするためには、楽器を演奏する技能、記譜する技能が求められるため、やりたくても、なす術がないという状況である。

しかし、このような状況であっても、デジタル教科書・教材を活用することで、教師は、旋律のつくり方を明確に説明できるようになり、児童は、コンテンツの利用により、先ほど示した技能が十分に身に付いていない状況であっても、他の児童と同様に旋律づくりの学習に取り組むことができる。まさに、デジタルのよさをいかした学習活動が展開される。

## 本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> <li>● 「目次を開く」から『雪のおどり』のページを表示する。</li> <li>● 二つのグループに分かれて、輪唱する。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伴奏を演奏する。</li> </ul>	<p>1 「雪のおどり」に、ばんそうをくわえてみよう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ばんそう</b>のそれぞれのパートの、くわり方や重ね方をくふうして、前そうにしてもいいね。</li> <li>● <b>🔊</b> や <b>🔊</b> は、いろいろなマレットをためして、合うものをえらぼう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽器の代わりに手拍子や膝打ちなどでリズムを理解する。</li> <li>● 楽器を交代しながら演奏して歌と合わせる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伴奏のそれぞれのパートの、加わり方や重ね方を工夫する。</li> <li>● 伴奏に合わせて旋律をつくる。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 工夫の仕方について、「指導者用デジタル教材」を使って説明する。</li> </ul> <p>2 ばんそうに合わせて、せんりつをつくろう。</p> <p>1 の <b>ばんそう</b> をききながら、せんりつをつくってえんそうしよう。</p> <p><b>使うリズム</b>  (なれたら  のリズムも使ってみよう。)</p> <p><b>使う音</b> <b>レ ミ ♯ファ ソ ラ レ</b></p> <p> を使う場合： <b>レ ミ ♯ファ ソ ラ</b> の音からえらぼう。   を使う場合： <b>ソ ラ レ</b> の音からえらぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 旋律のつくり方について、「指導者用デジタル教材」を使って説明する。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● つくった旋律を発表する。</li> </ul>	<p>2 せんりつをつくろう。</p> <p>上の <b>ばんそう</b> に合わせて、せんりつをつくってえんそうしよう。</p> <p><b>使うリズム</b> </p> <p> を使う場合： <b>レミファソラ</b> の音からえらぼう。   を使う場合： <b>ソラレ</b> の音からえらぼう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● つくった旋律を旋律づくりのコンテンツに入力し、全体で共有する。</li> </ul>

## 指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

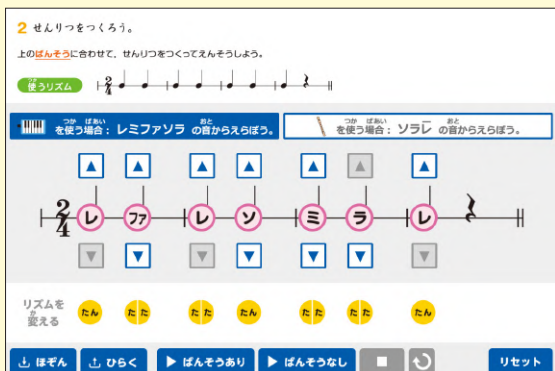
### 【第2時の展開場面①】

旋律づくり活動時の教師の説明は長くなりがちであるが、「指導者用デジタル教材」の旋律づくりのコンテンツを提示しながら説明することで、説明が明確になった。



### 【第2時の展開場面②】

これまででは、記譜ができない、演奏ができないという理由により、せっかく旋律は思いついても全体で共有することが難しいということが児童に多く見られたが、「指導者用デジタル教材」の旋律づくりのコンテンツに児童の考えを入力することで、共有が可能となった。



### 【第2時の展開場面③】

一人一人の作品を保存したり、次時では呼び出して再度活用したりすることができる。また、評価時のデータとしての活用も期待できる。

